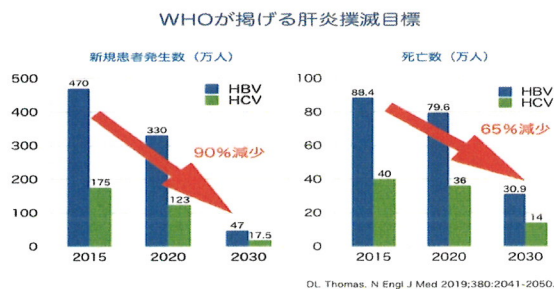


年の88.4万人から2030年には30.9万人に、C型肝炎による死者数を2015年の40万人から2030年には14万人に減少させることを目標にしています。B型、C型を合わせると新規の肝炎発症者を90%、死者数を65%減少させることが目標となっています。

## 日本におけるウイルス性肝炎の状況

日本におけるウイルス性肝炎の状況はどうでしょうか。広島大学の田中先生の研究によると、2020年度の段階で、C型肝炎治療中の方は27万人おられます。しかし、C型肝炎に感染していることを知らない人、あるいはC型肝炎に感染していても治療を受けていない人は最大56万人いるとされています。B型肝炎に関しては、治療中の方は31万人ですが、感染していることを知らない人、あるいは感染していても治療を受けていない人は最大76万人いるとされています。肝炎は日本の国民病と恐れられていましたが、近年、肝炎患者は減少傾向にあり、日本はWHOの目標を達成することが可能な優等生と言われています。今後は感染していることを知らない人をどうやって掘り起こしていくかが課題となっています。肝炎検査を過去に一度を受けたことがない人は是非、一度検査を受けてください。手術前に行われる肝炎検査、自治体が行う肝炎検診、妊婦健診、職域検診などで肝炎検査を受けることができます。陽性の場合は、消化器内科を受診してください。C型肝炎はDAAと呼ばれる抗ウイルス薬でウイルスを排除することが可能です。また、B型肝炎は核酸アナログ製剤でコントロール可能です。



## 《著者紹介》

加川 建弘（かがわ たてひろ）



東海大学医学部消化器内科 領域主任教授  
診療科長 肝疾患医療センター長  
1961年生 奈良県出身  
1986年 慶應義塾大学医学部卒  
1999年～2001年アメリカ タフツ大学留学  
日本内科学会総合内科専門医 指導医、日本消化器病学会専門医  
指導医、日本肝臓学会専門医 指導医、日本消化器内視鏡学会専門医  
指導医、神奈川肝炎対策協議会委員、神奈川県肝疾患審査会委員